

【山崎主宰の俳句】

火力聴力

山崎 聰

細雪少年二人上京す

退屈のやがて大きくうしろ豕の日

一月のあえかな光かの大樹

寒鯉のまなこの中を泳ぐなり

ありつたけの火力聴力冬籠

約束は雪の比叡の下り坂

真実のかたちも見えて寒卵

雪が降りおわりなきものとして山野

地底蠢ききのうきよう吉野は雪

匂い立つものもなくなり冬の草